



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

意外と身近な



今日からできる事業者の取り組みポイント！

SDGsが企業価値の向上や ビジネスチャンスの拡大につながる

昨今、様々なメディアで取り上げられ、目にする機会が増えた「SDGs」。SDGsに取り組む企業、地方自治体、大学や団体等も徐々に増えており、小中高校生の教育現場でも取り上げられ、SDGsは日常生活の中でも身近な存在となっている。

SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことである。より良い世界を実現するために、17のゴールとそれをさらに具体化した169のターゲットで構成されており、誰一人取り残さないことをテーマに、2030年までにこれらゴールの達成を目指している。

企業価値の向上やビジネスチャンスの拡大にもつながるSDGsであるが、具体的にどのようなことに取り組んだらよいかわからないという事業所も多い。独立行政法人中小企業基盤整備機構の調査によると、約9割の事業所がSDGsを認知しているとした一方で、内容の理解は4割にとどまっている。また、SDGsの理解度と取り組み状況には高い関係性があり、理解度が増すほど取り組みが増加するとされている。そこで、本特集では、SDGsを事業所で取り組む意義や取り組みポイント、当所の活用メニューについてご紹介をしたい。

これからの時代でSDGsは
ビジネスに欠かせないものになる!?

冒頭でも述べたようにSDGsは社会に浸透しており、ビジネスにおいても「共通言語」となりつつある。実際の取引の中でも、SDGsに取り組んでいるかどうかの評判の基準になったり、人々の消費行動の中でも、人や社会・環境に配慮した商品・サービスに重点が置かれるようになってきている。つまり、企業がSDGsに取り組むことは、企業価値の向上やビジネスチャンスの拡大につながる可能性があるのだ。

社会全体の流れとしても、気候変動やカーボンニュートラル（脱炭素）、ダイバーシティ（多様性）など、様々な社会課題が挙がっているが、これらの社会課題を解決することを重視する傾向が強くなっている。それと同時に、企業の価値を測る基準も、従来の財務情報だけでなく、環境への配慮や社会課題の解決に向けた取

『新たなビジネスチャンス』

『共通言語』であり、SDGs けに、地域との連携、新しナーの獲得、新たな事業のたイノベーションやパーとつながります。

01 『新たなビジネスにつながる』

▶SDGsはビジネス界でのへの取り組みをきつかり取引先や事業パート創出など、今までなかつトナーシップを住むこ

り組み、法令順守などの非財務情報も基準になつており、企業を評価する価値観に変容が見られる。

SDGsはこのような社会の変化に対応し、企業価値を高めるツールとしても注目されており、SDGsに取り組むことは、前述の企業価値の向上やビジネスチャンスの拡大のほか、新しいパートナーシップの構築やイノベーションの創出、人材育成や多様性に富んだ人材の確保などのメリットにつながる。むしろ、環境や社会に配慮しない取り組みは評価されず、売上減少などのリスクにつながってしまう場合もある。

一見、SDGsはグローバルで企業活動とは関係ないようにも見えるが、企業が行う事業活動そのものはもちろん、普段から取り組んでいる節電や節水、社員の福利厚生など、企業活動のすべてがSDGsとつながる可能性がある。このような理由から、意外と身近な存在であるSDGsを企業活動に取り入れ、活用することには大きな意義があるのだ。

取り組むながら『メリット』

新たな市場の開拓

環境・社会の変化を見据えた新製品の開発・販売

02 『選ばれる会社』につながる!

▶今後は、SDGsへの対応が、**ビジネスでの取引条件**となる可能性があり、取引することで、取引先や社会から**選ばれ続ける会社**につながります。

▶SDGsへの取り組みをアピールすることで、**よいイメージのブランディング**ができ、金融機関からの評価が高まるのはもちろん、顧客に対しても社会・環境に優しい企業であることをアピールできます。

他社との差異化

企業イメージの向上

SDGsに3つの『メリット』

環境・社会に与える影響に伴うリスク

ESG* 要素の不足による資金調達悪化
製品・サービスの売上減
企業イメージの低下 など

環境・社会の変化によるリスク

生産量の減少
調達コストの増大
原材料の不足
品質の悪化
ニーズの変化 など



《会社》

*環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の頭文字を合わせた言葉で、持続可能で豊かな社会の実現と企業が長期的に成長するために必要とされる観点のこと。

03 『従業員のやりがい・確保』につながる!

▶従業員がSDGsを通じて自社の企業活動が世界や社会への貢献につながることを理解することで、**従業員の仕事への「やりがい」**を生み出します。

▶SDGsへの取り組みをアピールすることで、社会的イメージ・信頼度をアップさせ、**意識が高く、優秀な人材を惹きつける**ことにつながります。

※小中高高等学校の「新学習指導要領」の中に「持続可能な社会の創り手の育成 (=SDGsの担い手を学校教育の中で育成していく)」が明記されました。

SDGsの17のゴール



ESG 投資による
資金調達

バリューチェーンの
強化

SDGsは誰でもいつでも始められる!! SDGsへの第一歩に向けたポイント

実は、SDGsは「できることから、いつでも始められる」一点が特徴の一つであり、自社の特徴やペースに合わせて取り組むことが可能である。特に中小企業や小規模事業者では、大企業に比べて意思決定のスピードや柔軟性が優位である点、地域との距離感が近いことから地域課題との関係が深い点でSDGsに取り組みやすい一面もある。

まずは社内で話し合い、考え方を共有しよう

- ・ 企業理念の再確認と将来ビジョンの共有
- ・ 経営者の理解と意思決定
- ・ 実施主体（担当者・チーム）を決める

SDGsに取り組む前に、まずは自社の企業理念を再確認してみよう。社内で話し合い、SDGsのゴールと自社が目指すものとのつながりを理解し、自社の将来像を共有しよう。また、社会における自社のミッションとは何かを、社員に考えてもらうことで、個々の意識改革にもつながる。

01 自社の業務内容の棚卸を行い、SDGsと紐付けられるか考えよう

- ・ 自社の事業・活動の内容を整理する
- ・ 社内の理解と協力を得る

環境に関する取り組みなど、企業によってはこれまで取り組んできた事業活動がそのままSDGsと結びつく場合もある。また、事業活動を整理する中、多くの社員を巻き込むことで、協力者を増やすことにもつながる。

02 何に取り組むかを決めよう

- ・ 扱いやすく、効果が期待できる取り組みを抽出する
- ・ 取り組みの目的・内容・ゴール・担当部署を決める
- ・ 行動計画を作成する

自社の持つ製品・サービス・技術やCSR活動、企業イメージ等、関連づけやすいゴールは様々だが、身の丈に合った取り組みを選ぶよう。

03 事業に取り組む、その結果を評価しよう

- ・ 経営者や社員を積極的に巻き込んで取り組む
- ・ 取り組みのレポートを作成する

事業に取り組む際は、振り返りができるように記録を残そう。進捗を確認しながら、取り組み前後を比較し、その変化をモニタリングし、結果を評価することで、次の取り組みにつなげやすくなる。

04 一連の取り組みを整理し、外部へ情報発信しよう

- ・ 取り組みの振り返りを行い、アピールポイントを整理する
- ・ ビジネスチャンスへとつながる発信方法を考える

取り組んだ結果を外部へ情報発信することで、新たなパートナーシップやビジネスチャンスにつながる可能性もある。積極的に情報発信を行おう。

SDGsの取り組みにあたって重要なことは、①～④を繰り返し、社内でのSDGsを普及させ、継続することである。

※「Corporate Social Responsibility」の略語で、環境活動、ボランティア、寄付活動など、企業としての社会貢献の活動のこと

ビジネスにつながるSDGsの取り組み事例

株式会社みまっ食品 ■ 前橋市上倉町2-1 従業員340人



『農作物のムダをなくしたい』

中華点心類を全国の量販店、外食企業、宅配企業を中心に製造販売を行うほか、市内でアンテナショップ「餃子工房RON」を運営し、一般消費者への商品販売も行う事業所。当社では、商品製造に関して様々な課題を感じていたが、SDGsに当てはまる新たな事業を展開している。事業に取り組む中で、新たなパートナーシップを構築し、他社からの技術支援によりキャベツの芯からGABAを抽出する技術を開発する等のイノベーションの創出や新たなビジネスチャンスにもつながっている。また、これらの取り組みを情報発信することで、会社のイメージが向上し、新聞掲載などの自社PRにもつながっている。

少しでも多くの方に喜んでもらいたい!
地域の生産者が丹精込めて作った
キャベツを無駄にしない!!

- 1 商品製造時に余剰品が発生
- 2 食用に適さないキャベツの葉や芯を1日約100キロ廃棄
- 1 余剰品を子ども食堂やフードバンクに寄贈
- 2 キャベツの非可食部から新たな商品を開発し、ビジネスの場が拡大



株式会社T SUNAGU ■ 前橋市河町2-13 青木ビル2階 従業員4人

「風景を修復する」をコンセプトに、古くなった住宅や手の回らない田畑、思い出が詰まった古材・古道具等の資源を循環させる事業を展開。事業を通じ、場所や物に根付く想いを守り、伝承していくことで、住み続けられるまちを守り、環境への負荷軽減を図る。

『人も環境も豊かになるように資源を循環させる』



取り組み内容がSDGsに当てはまっており、事業の付加価値が向上。引き合いが増えるなど、顧客に選ばれる取り組みにつながっている。今後も選ばれる会社として事業を続け、新たなパートナーシップを構築し、さらなる事業展開を目指している。



美しい故郷の風景を守るために
一人や一軒の想いを大切にしたい!

- 1 持ち主が遠方で、持ち家や土地の管理ができない
- 2 大量に廃棄される古材や古道具
- 3 増加する空き家物件
- 1 持ち家や田畑がきれいに安全に保たれるよう管理
- 2 古材や古道具を回収・販売。デザイン性やストーリー性に価値を感じる顧客からの引き合いが増加
- 3 中古物件の活用を支援し、まちを再生

本誌にもSDGsの取り組みが!

本誌「糸郡」では、印刷過程で有害な廃液が出ない水なし印刷方式を採用。環境負荷の軽減や紙・インキの節約、印刷機の劣化抑制につながっているほか、メンテナン스가簡素で、労働時間の短縮やオペレーター育成期間の短縮等、職場環境改善にもつながる取り組みだ。



前橋商工会議所の支援メニュー

まずは体験!

2030SDGsカードゲーム SDGsの世界をカードゲームを通して体感する

まずは、SDGsの世界を体感し、SDGsとは何か、理解を深めよう。

- 日程：8月25日(木)13:30~16:30
- 会場：前橋商工会議所2Fロース
- 対象者：県内企業関係者
- 参加費：1,000円/受講者
- 定員：50名まで(1社につき2名まで)
- 共催：ぐんまSDGs推進ネットワーク、群馬県
- 申込方法
- ◆メールの場合
 - ①社名 ②住所 ③TEL ④FAX ⑤参加者名 ⑥所属 ⑦役職 ⑧E-mail
 - をメールでお送りください。
 - 宛先：info@gunma-repare.com
- ◆電子申請受付システムの場合
 - QRコードより申込フォームにアクセスしてください。
- 申込期間：7月12日(火)~8月10日(水)
- お問合せ：前橋商工会議所総務部
- TEL：027-234-5111



本格的に始めよう!

SDGsコーチングプログラム

専門家による集団カウンセリングを通じて、SDGsの理解を深め、経営戦略における課題を顕在化したうえで、経営に役立つ目標設定や活動計画作成のための手法を学ぶプログラム。

- 日程：全4回(全て13:30~16:30の3時間)
- 第1回 9月28日(水) 「SDGsを知る!」
- 第2回 10月11日(火) 「事業活動をSDGsで考える!①」
- 第3回 10月26日(水) 「事業活動をSDGsで考える!②」
- 第4回 11月9日(水) 「SDGs宣言をする!」
- 会場：前橋商工会議所3Fリライ
- 対象者：次の全てに該当する者
 - ・SDGsを経営戦略として取り入れることに意欲的な県内企業関係者
 - ・前項の「2030SDGsカードゲーム」SDGsの世界をカードゲームを通して体感する」または、SDGsカードゲームを体験していること
- 参加費：2万円/事業者
- 定員：10事業者
- 共催：ぐんまSDGs推進ネットワーク、群馬県、前橋市
- 申込期間：8月1日~8月31日(水)
- お問合せ：前橋商工会議所総務部
- TEL：027-234-5111



申込はコチラ

随時募集中!

新たな一歩を一緒に! SDGs診断&行動宣言作成支援

当所では東京海上日動火災保険(株)と連携し、随時、SDGs診断と行動宣言の作成支援を実施している。本事業では、まずはSDGsの観点から自社事業を見直すことから始め、SDGs推進に向けた事業所の強みや課題の整理をお手伝いする。SDGsの第一歩として是非お気軽にご利用いただきたい。

SDGs診断事業ご利用の流れ

- 1 利用申込
QRコードからご入力いただくか
当所総務部へ。
(TEL:027-234-5111)
 - 2 事業所へ訪問。SDGs診断を実施。
- 1 『診断レポート』を作成
業種毎に「環境」「社会・職場環境」「組織体制」「サステナブルな取組」の4つの分野について合計40問のヒアリングを実施。取り組み状況を『診断レポート』としてご案内。
 - 2 『SDGs行動宣言』を作成
『SDGs行動宣言』を作成できます。ホームページへの掲載など、会員事業所様のSDGsの取り組みを社内外にPRすることができます。



〈制作協力〉東京海上日動火災保険(株)